

令和 3 年度

事業所名 : グループホーム ひなた

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0390200301		
法人名	株式会社 風和璃		
事業所名	グループホーム ひなた		
所在地	岩手県宮古市津軽石第13地割208番地160		
自己評価作成日	令和3年11月7日	評価結果市町村受理日	令和4年1月12日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

閑静な住宅街に立地し、山々や海の眺めがきれいに見えます。さらに緑豊かな環境に恵まれ、季節の移り変わりを絵画のように見ることができます。車の往来もほとんどなく、静かで落ち着いた環境です。お食事は栄養バランス等を考えた季節感のある品目を提供し、ご好評をいただいています。「安心と尊厳のある自立生活を支援致します」という理念のもと、利用者個々に合わせた生活を考えております。家族様とのコミュニケーションも密にとり、ご本人の思いや訴えの情報を共有しサービスにつなげています。また、生活の中で本人に合わせた機能訓練にも力を入れています。ある利用者様は寝たきりで褥瘡がありました。褥瘡が改善して立位の訓練に入れるまでになりました。拘縮予防運動や歩行訓練・お手伝いによる機能維持を本人の負担にならないように行っております。利用者様の日々の会話や表情を観察し、本人の立場になって考え、表現できない訴えも取りこぼさないよう努めています。コロナ禍で制限のある中、可能な範囲で地域の方と交流を保てるよう、消防訓練に参加していただくなどしています。

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先 https://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/03/index.php?action_kouhyou

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

市街地から離れているとはいえ、日当たりが良く、眺めの良い環境は事業所の大きな強みである。4年目という比較的新しい事業所だが、職員は、理念や方針に基づき利用者一人一人の思いをくみ取ることに努めており、良好な支援が行われている。特にも、明るく快適な生活空間が確保されているとともに、食事を楽しんでもらう工夫があり、入浴や機能回復のための体操なども充実している。また、毎週訪れる訪問看護師の協力の下、医療機関との連携もできており、利用者の健康保持とともに看取りの実施にも繋がっている。今年5月に隣接地に障がい者施設ができ、新たな交流の可能性も広がり、災害対応に当たっても心強い。コロナ禍にあって思うに任せないこともあるが、代表者、管理者を始めとする職員が介護支援に意欲的であり、出来ることを工夫しながら進めていくなど、一層の介護サービスの質向上が期待される。

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 いわたの保健福祉支援研究会
所在地	〒020-0871 岩手県盛岡市中ノ橋通2丁目4番16号
訪問調査日	令和3年11月24日

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当する項目に○印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	施設内のホールに「理念」「方針」を掲示している。月一回のカンファレンスで毎回管理者から理念と方針を宣言し開催している。出勤時に目視で確認してから業務に入るようにしている。	理念と方針は、開設時に職員全員で検討したうえで策定している。事務室に掲示し、毎月のカンファレンスで確認し合うなど、職員の日頃のケアに浸透している。特に利用者の気持ちを汲み取れる想像力を養うことを意識しており、その人らしい家庭生活の継続の提供に努めている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	自治会に加入し地域の草刈りへ参加。草花をもらったり育て方のアドバイスをもらっている。近所の方が犬の散歩の時、防災の観点からの危険箇所等を話し合っている。コロナ感染予防のため施設への出入りを伴うイベントはほとんど開催できなかったが、避難訓練には参加していただいた。	以前は、近所の方々に施設内行事を案内して参加してもらっていたが、コロナ禍により案内を控えている。近所から草花をいただくことや高齢者の相談を受けることもあり、多くのことはできないが、地域の草刈りに参加するなど地域の方々に親しみを持っていただいている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	認知症高齢者に興味を持っている、散歩中のご近所の方から、質問や悩みを聞かせていただき、アドバイス等を差し上げている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	コロナ感染予防のため、外部の方を招いての運営推進会議を開催することがほとんどできていない。社内の主だったメンバーで情報と認識を共有し、今後のサービス向上について話し合う場として機能している。以前市へ要望した、防災サイレンが設置された。	運営推進会議は、市担当課、近隣関係者、ボランティア、訪問看護関係者、利用者、家族代表等で構成され隔月の開催となっているが、コロナ禍により外部委員の欠席が続いている。欠席としての扱いではなく開催することができないか検討が必要である。	運営推進会議をあらかじめ書面会議とし、資料を送付し意見を取りまとめる方法で開催することを期待する。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	電話連絡や、書類のやり取りでお会いする機会がある際に、施設の状況についてお話するようにしている。市が開催する認知症カフェ等をひなたの掲示板に貼って宣伝している。市役所が開催する研修会などに参加している。	コロナ禍前は、運営推進会議に担当者が出席していた。現在、出席は困難であるが、市からの各種通知等について、不明な点は電話や窓口で指導を仰ぎ、丁寧に指導・助言してもらい、事業所の運営に協力いただいている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束防止委員会を定期的に開催。カンファレンス等で全従業員へわかりやすいように具体的な行為を説明し、抑制にならないよう研修を行って周知徹底している。スピーチロックによる抑制をしないよう職員一同心掛けている。できない事柄での代替えの言葉をカンファレンス等で話し合っている。	身体拘束防止の指針は開設当初に定めており、委員会は2か月に1回開催している。研修の一環としてその資料を職員に配布し、加えて年2回集合研修を実施している。スピーチロックにならないよう細心の注意を払っている。ベッドの柵、センサーは、本人や家族に説明したうえで、安全に配慮した最小限のものとしている。	

令和 3 年度

事業所名 : グループホーム ひなた

2 自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待について定期的に内部研修をして理解を深めているほか、外部の研修にも参加し社内で共有している。入浴時など身体や皮膚状態の変化を確認し、異常ある際は申し送りを行い、見逃しがないように注意をしている。その他、日常的に発見した場合は職員は管理者に報告をしている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	成年後見制度を利用されている利用者様の具体的事例から、申し送りやカンファレンス等で話をしたり、弁護士さんから直接話を聞いたりしている。必要性の確認も家族と主治医に確認している。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時には再度状況確認を行うほか、困りごと、死生観等をお伺いする。何か質問やご意見があればいつでもいいのでご連絡ください、と伝えている。単位改正等により利用料などが改正される際には、その都度ご説明と書類による確認を行っている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	ご家族より要望があるときは社内で検討の上、ご意見を運営に取り入れ役立てている。遠隔地にお住いの家族には電話やLINEで状況を伝え、お互い気づいたことを直ちに伝えている。	家族の意見は、最初のアセスメントに加えプランの説明時にも伺っている。利用者の状態が変化した場合には、電話で報告した上でその後の対応に関し家族の意向を確認している。家族からの相談には、納得いただけるよう丁寧に説明している。遠隔地の家族とは、LINEも活用している。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	カンファレンスや申し送り等に意見や提案を聞いて運営に反映している。その他にも意見や提案がある場合は気軽に代表者または管理者と話ができる環境がある。職員の個々の能力を生かすためにも意見を尊重している。	職員が自己評価する仕組みがあり、代表者や管理者から助言するなど相互の意思疎通に努めている。職員の提案については、直ちにできるもの、できないものを分けて検討しており、例えば、空間除菌脱臭機の導入を具体化している。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	毎月の内部研修や毎日のケアの中で代表者や管理者等が指導している。指導の際は個々の特性を見極め、活かすよう心がけている。職員に自己評価をしてもらい向上できるような環境を作っている。		

令和 3 年度

事業所名 : グループホーム ひなた

2 自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	毎月の内部研修や毎日のケアの中で代表者や管理者等が指導したり、職員同士で声を掛け合ったりしている。個々の特性を見極め活かせるように声かけしている。外部研修に行った職員は内部研修で共有を行っている。自己評価や日常の話の中から職員の能力や力量・性格等を把握できるよう努めている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	地域密着型サービス協会に入会している。コロナ感染予防の観点から往来は控えているが、他事業所と連絡を取り合い、情報交換ができるネットワークを作っている。地域連絡会議にも参加し同業者等と情報交換を行っている。		
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入所前にフェイスシートを作成し、初回アセスメント時等で情報を共有し不安の抽出に努め、行動や会話の観察を行い安心して過ごせるよう支援している。不安や要望を表現できない利用者のため、その人の立場になって考え、想像している。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	家族も利用者の一部ととらえ、不安に思っていることを抽出できるように努めている。コロナ感染予防のため、事業所への来訪や面会はできるだけ控えていただき、数少ない直接面会の機会を無駄にしないように、可能な限り丁寧に説明を行い、疑問や不安が残らないように努力している。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	担当者会議やアセスメント時の会話や言葉等で表現できるものだけでなく表情や相手の立場に立って想像し必要なケアサービスを提供できるようにしている。主治医と相談して医療のデイケアが必要の方へ支援を行っている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	その方が生きてきた人生を尊重し、可能なことはできるだけやっていただけるように、茶碗ふきや洗濯物のたたみ方や干し方、掃除などの手伝いをお願いしている。また、お話をすることで様々な知恵や知識を教えていただいている。		

令和 3 年度

事業所名 : グループホーム ひなた

2 自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	電話等の非接触的な手段で極力連絡を取り合っている。用事だけでなく雑談なども交えつつ、家族の人となりを理解する努力をし、一緒に利用者様を支える仲間であることを確認している。危篤時の立会いや葬儀、法事等に出席できるよう支援している。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	昔近所付き合いがあった人を家族から聞き同意を得たうえで訪問や電話で交流している。美容院や、買い物をよくしていたなじみの場所に行っていた。なじみの方との食事や宿泊できるよう介護の仕方やくせ等も話し合い、対応してもらえるようにしている。新型コロナウイルス等で面会は禁止だが電話等で行っている。	最近コロナ感染者が出ていないこともあり、10月中旬から来訪者の体調等を事前に確認することにより、面会の制約の緩和に取り組んでいる。昨今、馴染みの方々との交流は減ったものの、毎週の訪問看護師との交流があり、隣接の障がい者施設とは新しい馴染みができつつある。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	職員が仲介しお互いを理解し合えるよう支援している。皆さんがホールに集まり、料理や生活環境、昔話や遊び、趣味等のお話をしている。強い言葉が出ることもあるがけんかにならないよう職員が仲介し、柔らかい表現にして伝えている。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退所した方とも家族と連絡を取り、たまに遊びに来てくれることもある。違う施設や病院の入院等の時は相談にのり、フォローを続けている。退所後の入院の様子は、面会ができないため電話で家族に聞いている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	アセスメントや普段の会話から本人の意向や希望を把握し、できるだけ対応している。表現できない方場合は家族の意向や本人の立場に立って想像し、把握に努めている。利用者様に役割を持ってもらい生きがいになるよう支援している。	話すことのできない利用者が1名いるが、表情などから推察するように努めている。利用者がリラックスした状態にある時は、本音を話してくれることが多い。職員は、利用者の気付いたことを申し送りノートに記入し、カンファレンスで伝え、情報を共有しながらケアにあたっている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	アセスメントや家族からの情報、普段の会話から把握している。また、なじみの方のお話や、場所、お店などのお話から、以前の生活や好みを把握するよう取り組んでいる。		

令和 3 年度

事業所名 : グループホーム ひなた

2 自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	会話やバイタル、入浴排泄介助等の日常生活や、医療との連携により最大限、現状の把握に努めている。日々の会話や表情から、家族の要望も含めて把握している。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	家族の訪問や電話連絡時、要望や必要なケアを説明し意向を反映させている。訪問看護師や主治医から、必要な医療的ケアについて相談している。居室担当を置かずに職員すべてが把握できるようにしている。カンファレンスで話し合い、職員全員で本人の状態について共有し、意見や要望を想像し反映している。	居室担当制にしていないことから、管理者とプラン計画作成担当者の2人でアセスメントし、全員での協議を経て作り上げている。プラン作成に当たっては、利用者一人一人の生活の背景を意識するとともに、例えばスケッチブックに描写することが得意な利用者への配慮や動く範囲で手足を用いて出来ることなどをその人の役割として盛り込んでいる。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の様子や気づきなどケア記録に記入し申し送り等で情報を共有。カンファレンス等で話し合い計画の見直しをしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	訴えを汲み取り自宅の様子を見に行ったり、食べたいもののリクエストに対し、家族に送っていたり、ひなたで対応したりしている。電話に出れなくなった家族に対し、訪問して利用者様の受診状況や近況等お話ししている。遠方で来れない方には電話やLINE等で会話や動画等で報告している。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	なじみの近所の方との交流を仲介し電話などで今までの交友関係を損なわないように努めている。どうしても出席したい葬儀や法事も対応できるように家族やお寺さんと話し合い支援している。医師と相談し医療のデイケアの利用に対応していた。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人や家族の要望を汲み、かかりつけ医をできる限り変更せずに対応している。定期通院以外の必要時に利用者様の情報を伝え適切なアドバイスをもらい対応している。訪問看護とも連携し情報を医師と共有している。看取り対応が必要なケースで、可能な医師の方に変更をお願いした。	入居前からのかかりつけ医の受診継続を尊重し、基本としている。通院に職員が対応することも多く、施設内での様子を伝え、医師の指示を確認するなど、医療機関との連携を図っている。週1回、訪問看護師が来訪し、専門の立場から医療との連絡調整も担い、適切な受診に繋がっている。	

令和 3 年度

事業所名 : グループホーム ひなた

2 自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	訪問看護に週に一度定期的に来てもらい、受診結果や日々の様子について報告し、情報の共有と利用者個人々人についてアドバイス等を受けている。必要時には電話相談や訪問にも対応してもらい、利用者が適切な看護が受けられるように支援している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	入院時には可能な限りご家族に付き添い、連携室や看護師さんにADLやくせや好みや嫌がることなど伝え、退院時にはカンファレンスを行い医療との良好な関係を築いています。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	契約時に死生観を本人と家族を交え話し合い、事業所ができることを説明。訪問看護とも連携し情報を共有している。職員に対しても情報を伝えいざという時に対応できる体制にしている。死期が近づいた時には再度、本人や家族に可能な限り確認をとっている。	看取りについては、入居時に家族と詳細に話している。今年7月の看取りでは、訪問看護師が医療機関との連絡調整に当たり円滑に行うことが出来ている。看取りの場面に遭遇する職員が不安にならないよう、訪問看護師が資料を配布し自己学習を促している。現在、1名の利用者が看取りを希望している。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	定期的にマニュアルに従い、研修を行っている。またマニュアル自体も定期的な見直しを行っている。急変時の対応後に行動の確認を行って実践力向上に努めている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	避難訓練を地域の方の協力も得ながら定期的に行っている。事業敷地内に感知式タイプの照明を設置している。地域の方に避難できることを伝えている。非常災害対策計画を策定。非常時用の水と食料、ガスコンロを常備している。	隣接の障がい者施設と合同で避難訓練を実施している。過去の訓練での反省から、車椅子利用者2名を念頭にした避難経路の舗装や感知タイプの照明設備の設置がなされている。毎月の会議の時間を利用して机上訓練を行い、次回は3月を予定している。食料等は3日分程度を備蓄している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	業務内での言葉遣いや態度が適切かどうか確認を行っている。利用者本人が大事にしているものを把握し尊厳を持った生活ができるよう対応している。カンファレンス等で職員に周知し現場で実践している。部屋やトイレで交換したおむつ等が他の利用者の目に触れないよう配慮している。	さん付けの呼び方を基本にしている。利用者一人一人には歴史があり、教職にあったり宮様のドレスを縫製したりなどの背景を大事にしている。居室入室に際してのノックの励行やトイレへの小声の誘導など、プライバシーへの配慮を最優先にしたケアに努めている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	行動する前に声がけし、本人の意向を確認し同意を得てから対応している。更衣・入浴や外出等、本人に合わせて対応している。利用者からの食べたいもののリクエストに応えるなどしている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	本人の訴えや日常の様子観察、会話等を通じて本人の意向や不安を抽出し、意思を尊重した上で本人の立場に立って考え対応している。入浴時に本人が気分が乗らない日には別日で対応している。食事の時間も本人が食べたくない場合は時間をおいて対応している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	できるだけ本人と一緒に着替えを選び、自己決定を促している。家族からの意向も聞き対応している。本人の希望を家族に伝え準備していただいたり、対応できない家族の代わりに買い物に行ったりしている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	アセスメントにて本人の好きな食べ物、嫌いな食べ物を聞き把握。食事のメニューは利用者のリクエストがあった場合には対応し提供するようにしている。職員と利用者が一緒に食事の準備や片付けを行っている。具体的には食前のテーブル拭き、食事の時のお茶葉のパック詰め、食後の食器の片付けなど。	食事を楽しんでもらうことを第一にし、リクエスト表を活用し、各種行事食や「豆すっとぎ」などの郷土食にも取り組んでおり、煮込みラーメンも好評を得ている。職員が交代で調理するが、利用者はできる範囲で皮むき、茶葉のパック詰め、テーブル拭きなどの手伝いを行なっている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	状態の観察、食事量や水分量の把握や体重の記録、訪問看護さんや主治医にも報告しアドバイスや指導をしていただいている。十分な量が摂取出来ない場合はご家族、訪看や主治医と相談のうえ、栄養補助食品を提供している。		

令和 3 年度

2 自己評価および外部評価結果

事業所名 : グループホーム ひなた

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、本人に合わせた対応で見守りや介助を行い、口腔ケアを行っている。状態が変化した場合や義歯の状態にも気を使い対応している。定期的に薬剤を使用した義歯の消毒を実施。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄の記録を取っているほか、表情や会話、態度等からも併せてパターンを把握、観察し本人に合わせた誘導や声掛けを行っている。また本人の訴えや記録から状態を把握し、医師へ下剤の相談し調整してもらっている。	多くはリハビリパンツを利用しているが、2名が自立している。家族との相談により、1名が居室でポータブルトイレを利用している。寝たきりでオムツの状態だった利用者が、歩けるようになり、リハビリパンツで大丈夫になった例がある。現在も機能回復に向けて努力している利用者が1名いる。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	ヨーグルトや牛乳を提供したり、食事の工夫や毎日の体操を行ったりしている。個々に腹部マッサージや歩行練習等を行い、排便の促し対応している。訪問看護にも個別に把握してもらいアドバイスをもらっている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	本人から入浴の希望を聞き、本人が入りたくない場合は翌日に対応。時間も可能な限り相談に応じ決めている。事業所でシャンプーやボディークリームを用意しているが好みのある方は自分の用意したもので対応している。週2回は入浴できるように調整している。	月曜から土曜日の毎日に3、4名ずつの入浴とし、週2回以上を確保している。入浴剤は使用していないが、季節に応じてゆず湯、菖蒲湯でリラックスしてもらっている。入浴は、職員がリラックスした利用者から本音を聴ける機会でもある。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	夕食後テレビを見たり会話をしたりして過ごし、本人の都合に合わせて就寝している。不安のある方には職員が傾聴、安心してから寝ていただいている。足が冷える方には湯たんぽを使い、布団をあらかじめおく対応もしている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	服薬の管理は職員が行っている。服薬情報を個人のファイルで管理し処方変更などの情報を共有、状態の確認や様子の観察等を行っている。訪問看護や医師から服薬のアドバイスをもらっている。		

令和 3 年度

事業所名 : グループホーム ひなた

2 自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	毎日、YouTubeでラジオ体操に取り組み、茶碗拭きや片付け、洗濯もの干し、たたみ、掃除等役割を持ち張りのある日々を送られている。アセスメントで生活歴や嗜好品や趣味を把握。普段から希望を聞き対応したり、代わりに買い物に行ったりしている。季節の食事の献立、施設でのバーベキュー等、コロナ禍の中、個々に合わせた気分転換ができるように支援している。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	コロナ対応で、必要な通院以外の外出はできなかった(受診自体も電話対応で行うこともあった)が、最近は状況に合わせて徐々に緩和する方向に向かっている。本人や対応する家族の体調チェックなど必要な対策を取ったうえで短時間・小人数の面会や外出から対応を開始している。	コロナ禍で、外出が難しいが、サンデッキや外にベンチを出しての日光浴や周辺の散歩に出掛けている。通院のための外出の機会を利用し、生家付近を遠回りすることもある。レンタカーを借りて、全員揃ってのドライブを企画したいとしている。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	本人や家族の希望を聞き調整を行い、希望者には本人にも手持ちのお金があり買い物を楽しめるようしている。本人の希望で金庫で保管している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	本人が使用している携帯電話や、事業所の電話にて家族と会話してもらうことがある。あらかじめ家族と話し合い本人の要望に合わせて電話対応している。スマホにてLINEや動画を送るなどの対応もしている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	大きな窓からはたくさんの陽が差し込むホールは外の景色が目の前に広がる。ソファーに座り朝日や空、森を眺めながらゆったりと過ごせる静かで穏やかな共有スペースとなっている。季節を感じる飾りつけや皆さんで作ったものを置いたりしている。部屋には今まで使っていたものを持ってきていただき安心して過ごせるようにしている。近所の方からもらった植物等を飾っている。	共用の居間では、テレビの前や日当たりの良いところなど一人一人が気に入った席があり、利用者と相談しながら席替えも行っている。明るく広い空間は快適な温度が保たれ、空調設備も設置されている。利用者の作品が展示され、季節を感じさせる飾り付けもある。	

令和 3 年度

事業所名 : グループホーム ひなた

2 自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	皆さんでお話できるスペースや夫婦でいっしょにテレビを見れる場所、一人でいたい方には本人に合わせた場所を工夫し対応している。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室から海が見えたり、森が見えたりとても開放感がある。エアコンや温度を変えない換気扇がついており温度管理もできている。テレビや仏壇などなじみの使い慣れたものを持ってきてもらうよう相談し対応。今まで使用していたベット、家族の写真や手紙、ここでの写真等を配置し、居心地配慮した対応をしている。	ベッドとハンガーラックが備え付けられているが、慣れたベッドを持ち込む方もいる。タンスや衣装ケースの持ち込みが多く、仏壇も持ち込まれている。ペットに代わるぬいぐるみの持参もある。職員による掃除も念入りに行われ、居心地の良いプライベートの空間が確保されている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	できることを生かして掃除や食事の用意、洗濯物を干したりたたんだり、機能維持できるよう誘導している。本人の体調や状態に応じて無理しないよう声掛け誘導している。		